

^ 5
6501



今脱——下脱も、たうまぬ月乃露 公成

一里乃ふぬ、乳をう、赤 赤甫

角力場へ、つら、つひを包むん 拾山

むさと、渡ハうきぬ、却又由ひ 采友

新り——ぬ、乃あて字のよあうぬる 蕙逸

・ 旅を去て、来て、粹、又ありたり 帆道

雪乃、雪つけ、雪く、箱をまきけり 塵外

志乃、寸乃川の、何うききうき 胡白

低う、るる、森、見乃、ちの、塚、う、ち 菘六

真名、遠く、く、く、く、時と、才、角 糟鬼

酒吞、乃、こ、お、と、月、お、も、差、つ、う、い 梁辰

や、う、わ、く、と、唐、を、ち、ち、て、つ、け、お、く 金丘

二、夢、と、は、く、け、は、略、乃、あ、い、ま、也 秋菜

阿、う、ぬ、ち、か、ら、う、ま、ま、い、出、寸、雪 自長

散、て、ち、ち、い、ち、も、名、う、ま、遠、か、る、を 有蔭

坐、う、並、い、居、る、孫、乃、う、う、か 桃乙

右一順 末畧

しとくをよきやまのふ極る竹乃雨 于當

羊乃新鶏の啼り房のこゑ 養北

土ふりかひるくま井を汲て 千崖

むふ例も碓布一海老 當

たのしむハ襦も乃おく宵乃月 北

毛ぬよりもまゝの虫 宗樹

杉板乃るも蒼む雪仙花 當

土言乃はちゝ返り傘 崖

菖蒲乃味ハととやら小淋 樹

木乃葉の青はうき人小似る 虬

思ふとくそ乃耐る小誘りぬて 崖

松任乃やと能もやき鶏 當

みおはほて志やうりハ留りり 虬

沙室乃連交はくくとすむ 樹

光琳乃月ハ涼き斬乃極り 當

板遠して土拍子小半 崖

まはる花ハ薔織之花ころ 樹

琴田乃先乃きくう安中 虬

嵐賦

桑をひく祢はこハ林乃扱乃長きもいと
ハハ梁を走る早業ハ妻を悪るん乃罵
小やひうれらんか乃毘首羯摩う作りか
佛をう志りー罪も親を養ひ子成をこ
くむ世濁りるハ焰魔乃廳乃ヤ訣も
たつへーされハ塵劫記小載しれて子又
子の業をうそつハ目出たきいさをふこ
そ耕牛宿食るまねとも倉氣餘糧あり

と古人も祝きり

猿後園于當述

山吹小化ーも志川ふん志ろ嵐

右のふとひるハ及古の中より

又心ーつれハ追福の考ふま

枯のまき上本ーそつらぬ

垣こしよ布めあふやと船乃林

蒼虬

あま花をうり多き南瓜

暮雨

月近ハ虫水乃砂も突登りて

朝陽

掃ても藝乃とれぬ費沙

北

わやつて建そこまひ一幟竿

雨

舞戻りてハ悲蟻むらう

雨

齒乃ぬりこやうふ減くは海屋町

北

かるハ傍とくさつ文持燈

雨

魚引もをつたふなりし小嶋日

雨

老尼を吟て吳能まわりの

北

指別ぬうちハカも是あやま

雨

相言乃茶碗念入てえり

雨

立家乃本乃月此布つそりと

北

殊乃中流りも言まひと村

雨

のこ分て火付もたぬ若菘

雨

年中撥不極平とさ人

北

平こえの川に石おく花莖

雨

雉子走り出る阿ま砂けのそ

雨

藪入り後架の薦もかけ之て
くつすり焦し衣具の洗濯
ちまくと箆や職のまじり
すまろこ急を破くくろかり
はちろちとわろ暑き水は裏
小一丁鞆のあやうろ大本
付て来て賃をとりし重母握
まんく耳小紗る半陸
臺傘の勢古志つちりもつじ也

雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

又出て火節の巻言つ夕月
立繩をうけて又切よきそ米
降ふハあれと菜を傷るん
お相ふきやうて片あき粥不飲家
折小袖乃つよい考さ寸
抜すしる古木乃釘のる小舎
湯のわさやう僕えはと神所
人除し蕨をとをの根し遠せ
群集小豆袋をよそん暖

雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

散とをりくちるはくくうか 朝陽

葭竿毛る日の暮途を叙 暮雨

菜箸の櫛ふじ春乃 掘追て 雨

砂織乃紐をうしろうとく 雨

初月小川乃多 垢寸を面り 雨

藪のあひこの 葎ひやつく 雨

栗山子おも似くうとくう 能鳴子引 雨

いらつちとついで火のつうぬ石 雨

息乃本つくと白く膏乃 雨

田を季家乃ふえー ぬけぬ次 雨

手伝ふ友もまきり 八日 雨

食つくすて乃おそい 暑あそり 雨

又きしあふふ 菱の男は 傑出て 雨

髪油小光るのうとん 雨

果てくう夕月昇る二のかつり 雨

乃ふハ一日 東風の吹つめ 雨

芝焼の灰もかきつ 初を小 雨

めつとふ 妻ハいへ 山科 雨

死をさうと吹ありぬ茶所の尾

小松へおろす茶をさうい

うつろさお精かきりうら軒うき

曇りくあり小月の入ふり

うつろく酒屋の朝乃さき水

又いつこめる皆乃下おひ

浪目さうろく志う讀ぬ松仲る

早合点しそ出まらうさうい

田乃中へ神楽を落尺林を

雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

糸乃つうはあるる夢本乃月

掠る食うむらさきさう連乃強

路を志をさうももとら名を呼

死乃子ハちうい処へ拾りまて

うらばハかりまさと八瀬乃やうい

こえ松をちうろくかやけ灯の休り

一叟雞乃卵たくまをする

咲を乃吹まうらすり昔乃お

海をうら新場海苔のほり場

雨 雨 雨 雨 雨 雨 雨

寸ちくして光もちり林乃月卓池

根乃ふき風乃通守素裕 苔雨

虫乃あぐ搦屋乃壁を志つひて 池

夢る有らつ杖まきら 雨

とろろ麦刈時乃日掛沙 他

抱ひ処乃志まぬ子依等 雨

出寸すそく歩ありし志そそ船 雨

とやうり鳥乃別く立 雨

水遠くふ重乃烈しき空をうり 池

極木とろろふ室成え四の 雨

評判乃まおもとどろふんて 池

料て心後と上る 雨

葺萱まちく月乃明然り 池

露乃柔中傳ふ 雨

盆乃無途中て乞てとろろま 池

うらまはれぬる 雨

飲くうらまはれぬる 池

さいとハツと 雨

公家飲くあや成はくまもき
 油燗たまりてくまもき
 我木と捨るりて柳にそく
 燗入にそくふりもき
 帷子をとんでおけは焼く
 りひ鐘るるりもき
 わやつてそくをり燗吐るり
 言い処るおろけ土桶
 きくおもふおきそく燗
 池 池 池 池 池 池

作人うらる燗にぬきはし
 十月ハ燗くもあてくあぬ
 毛引乃鴨と繩てかけり
 燗さりてあつりもき
 丁稚さうもふりもき
 燗さるりもきと燗は草正柳
 穀口燗乃燗まてあ
 幹あまをり自ひのさり兼て
 おくはるあつり燗は麻燗
 池 池 池 池 池 池

窓と星あはれをさすりし中庭うか

梅室

片側をうりあはく掛稿

苔雨

標も焼離坐浦をさすりて

若黨ゆとりまをさすり

室

たし切らあはくを伐まぬ大概

伏樋乃朽て多は吹出る

雨

院もまを宿役人と枕もと

阿仙を嚙てあをさすり

雨

うきつゝ河系洞窟もさすり

室

四手洗すあり引さりもあはく

雨

傘あはく山をさすりあはく

室

群も鳥ハリ乃さすり

雨

仮茶屋も名月限り戸をさすり

室

抓菜畑を踏てことわら

雨

友達を刀あつけてをさすり

室

待ぬるをさすりあはく

雨

をさすりあはくあはく

室

薨れあはくあはく

雨

嵐心のさやきのひて

之新茶屋の座ととを求む

又流のまじのむのろくのふの草雨

苜蓿のろくのをのもての志 有節

曳鴨のさのわのふの壇のとのめの雨

獨蓑のまのくの候の結のおのふ 節

好のまのくの月のまのきのひの松のゆのものきのえ 雨

此の分のこのけの一の峰の乃の四の阿アツマヤ 節

正の温の泉の乃の利のての死のいのうの肌の寒のく 雨

むの寸のめのまのうのくの金の乃の出の入 節

料の理のよりのおのものまのまの麻の互の人のおのね 雨

敵の名のもの脊のへのものおのかのあの舟 節

やのたのろのうのろのあのまの路のとのむの西の免の下の結 雨

六の角の也の乃の初のねのまのやのうの持 節

今の之の蝕のかのろの月の乃の澄のらのきのり 雨

十の三の二のハの鯉のもの落のるの河の也 築 節

喧の嘩のとのろのふのおの撲の乃の何のとの吸 雨

奈の之の茶のものかのすのりの市の乃の多の内の也 節

紅梅のひらく〜笹乃敷す〜り

一はく〜りに花る紫藤花

雨 前

海う〜乃山睡す〜き小妻うふ 桃乙

獨かける石を拂ふ襟巻

苔雨

芥乃樹の名札をりく書うて

乙

吹多きうちに海は夕ぬし

雨

月待も只去つうあち片り系可

乙

厂ハす〜り名る〜一與

雨

慰〜松露掘出す赤砂乃

乙

^{ウチキ}罍踏娘ハ 猿乃心配

雨

面さ〜ハか〜〜〜あ〜ぬ云号

乙

急〜山沙流乃流るる玉砂

雨

筆目乃多〜ぬち〜〜水うらそ

乙

百日紅〜疎き〜月〜氣

雨

五六丁西と教る千代乃坂

乙

もて未て呉し絨布ウケひく
 師ウケより下傳く櫻店の大胡坐
 移スベる乃おの佐助スベ流る
 初むく魁ウケあくる 走り 嘆
 僕をウケしきりく丘ウケの 蝶
 丙 乙 丙 乙 丙

五畿内

山乃名もろふ 少初や新山城家 辰丸
 一はとくあやうて 能くも梅のを 赤甫
 おもウケろき中ををさく 弥生ウケふ 芥舎
 あらウケり花を 翼あり 嵐山 拾山
 木ウケくま乃家も 夷あり 人出入 淡路
 たのウケま言ふ 家乃 柳ウケが 公成
 岩をりて 湊き 月新乃 櫻ウケう系 文海
 初多ウケまて 賑り 及ウケる 丁 有路

宇治

朝うけの茶搦や唐化粧

波同

ふくもふくもうけの着衣始

松女

ふとふと急流の沙流茶系

自花

埋火や身を休むは松乃夏

升悲

神乃出青海系の風もあ

只田

路のき一夜乃雨をを其し

鳥岬

人住てこそ乃もあま山さる

桃五

系乃衣の茶搦ふくもあま

雲川

花の一ツ茶青——岩乃花

雲負

春乃花たても花まては歩りり

雀石

博り船すゝ急ありりくと瀬流ふ

要乃至とりて志とて杖をとむ

雲ひくと新うやまも扇乃画

雲洋

日乃夏やまの舞をむ地乃花

雨蒙

炭つらや火権ひと乃夏とて

雲系

ひふち乃わひ——きをや志を

文湖

よふちとて雨降過て浮沙

黙池

入とまゝと来て又南に花乃塔
 物とまゝと来て又南に花乃塔
 りとまゝと来て又南に花乃塔
 黄鳥乃水乃上あり乃塔
 孤うう人柳をふぬ蚕う維
 桐一葉落てまゝ中より乃泡
 勝しとき秋乃多し乃塔
 あつやうとまゝと来て又南に花乃塔
 大古乃まんとまゝと来て又南に花乃塔

百可
 孤柳
 夷夕
 紅頂
 梅通
 湖月
 頑水
 梅菊
 九起

来る人乃隙あきたらぬ花七白
 突て来と林もつとや来乃雪
 葉のゆきもや幾あも枝揺り
 露しとれと来ま満るや晒向
 乃今出やあまふけの梅乃月
 雨音も降うと多あり板庇
 傘下と出て又眺く接木うか
 必露と人多言き小里うか
 昔菊ふして夕風処す秋櫻分

玉芽
 司水
 松浦
 洗我
 子風
 古鏡
 和歌
 松子
 湖津
 湖水
 瓢六

干涸くさる菊らんそぬ柳うさ
 知人くそとくん地や路うさ
 晴天や神夜らんそき起そら
 庭きりてまきさあるや桃林
 豊砂く一粒くろき規うさ
 新う枕乃下ヤきりくく
 初林や思いちやき乃そ乃色
 鈴く玉溜や羊くくうれて祈り鈴
 さりるふと残るやうあり巻乃露
 素登
 城見
 鼎危
 松隣
 知風
 林曹
 曲阜
 梅窓
 よぬ女

嘆やうくくろそをたる峰乃麻
 えりやたぬ夏ふき疎そら
 芥火くおちてともゆる木乃葉水
 蔓草乃実もさそひりちる木乃色
 木乃くく乃やむとまきまき地乃
 可大

東街道

牛ひく濁ハんそそ乃河
 燕猫乃森もそ併ひと秋戸口うさ
 了りくくとふれハ名乃つく叶ぬ水
 善風
 四沃
 梅生

漸きも降り乃出未て然ら乃月
 去りつ子依乃捨ふ不敷う如
 中々もや 危きハハハハも啼
 口ハ心りかりて廣きを焼くか
 田乃多の池そ風も早苗うか
 つる草乃免く寸しる 蒼うか
 うたふ舟も亦ふかや 友乃月
 思ふ進て空すく草やもくも
 七一 鳥古 庵さ 未の 池や 初 穰
 尾 士 前
 松 臺
 輝 外
 宣 屋
 二 平
 示 豊
 岱 月
 素 尚
 檀 石

笑コウリもやし名乃赤つ木
 多々中そ花之急うぬんうか
 近江路々ありてん急うて急うか
 友ハ重乃重々々々之て湖乃月
 霖ヤ中々々々つうぬ 是乃地
 去ららやちく連りしとるり空
 湖乃空そもろり 吹也 疾乃風
 横窓之杉乃幹 又る時あうか
 谷川乃名 確もり 永うう如
 尾 士 前
 一 侍
 李 嘆
 士 芳
 梅 裡
 庭 知
 二 路
 鵬 石
 而 后

秋の夕暮の光をよみしるる

秋夕

嵐山

舟の経木を著るるる山をむ

舟遊

一やい乃 藪田の待をるる難を

星岬

咲初るる方より一 梅乃と

鶴豊

梅乃一 赤と正月も 雲乃と

三郎 完位

松乃乃 春もも 中もも 春も

青可

秋乃 夜や 月と 春乃 小 晴 早

蓬字

葉 横乃 おもも 女もも 乃 早 乃 春

鳥谷

霧入や 笠もつと 草もつと

杜水

居たあつと 心も手も 乃 乃 乃 乃

沈香

系ひるる 木も 心も 乃 乃 乃 乃

素朴

青柳や 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

種雨

木乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

嵐牛

夕風乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

板屋

節く 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

豊雄

慈橋や 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

△サシ 逸園

崎一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

峯哉

芳草
 弘湖
 足外
 野井
 卓郎
 可高
 為山
 花海
 抱義

東山道

萬事りある風布をある田面う系
 松山乃木松つる、以て此の原し
 涼さを忘るる月、月、風
 葛水、松風海の中を流るる系
 とき、時、ある山崎や、ま、星
 梅、月人、中、あ、り、ま、さ、さ、り
 松乃、青、く、朝、日、夜、ふ、出、村、う、系
 初秋、や、利、茶、乃、扇、く、片、山、系
 秀月

其修之康々も下々以て及乃月
風乃てふ梢乃を能散推し
梢乃を中々知乃ありて而後乃
而く葉乃ちりく障乃清水乃
着乃乃りもをとこそ又進路乃
目乃乃ハ照乃れて陰乃森乃
清くうあく而もこ不乃んわん星
嘗乃試乃らきツ新乃乃乃

北陸道

伍悠
雲可
重二
重流
出乃 沸風
風柯
沈乎
接泉

花乃乃中々下も不乃き鹿乃うを
ゆきりり多乾投入一かきつ
水乃て朝乃乃ひり柳乃うを
去乃乃乃折乃乃白乃乃其乃乃初終若
花乃乃底乃乃そわく午時乃乃牡丹乃乃
下終乃進ハつふ手乃乃扇乃乃様乃乃
志乃乃乃むり端乃乃乃漢乃乃乃大根曳
柄乃乃乃新乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
風乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

越乃 香雨
旦末
布珀
乾露
大菱
木圭
栲炭
子炭
悠乎

初春乃始々又々る木槿う糸

阜丈

鴉乃屋とる小嶋乃之申美乃月

笑圃

よる成乃返りていさむ子色が

可盛

茶乃花や午時々る乃なき日乃儂

風兮

湯上り乃中々梅名を極つてき

都盤

海系や重あゝ松もありとてんる

風色

風々吹出さるるヤッる乃色

文友

美徳や祝しき中乃小言あ

花川

早外や葦うむ子とあやゆき

耽鶴

糸乃とたつ寸むつ進や美乃月
さーあけ七尾守るや花乃と心枝

越後
紫丸
栢一

山陰道

松乃春や草の店餘る後々鳥

丹波
小籠

風や茶砂乃乃むる廣小島

乐水

つとや日初を噴乃季乃市

丹后
东柯

湯出さる形をいそそ荻乃夢

因
巴大

嗚乃為むさる花中初菰子

仙
熊橋

何となく咲き美乃初乃う糸

出中
卜之

花根うさ松乃文りや言體籠
精しそおくや熟も花乃友
一痴

山陽道

可達布と乃花も黙る言敷うか
播
牙齶

跡も故乃花多ありぬ黍乃風
栞路

志らるくやさく水陰乃青き草
鬼玉

多るや月さほくく栞りり
と之女

連た馬や辟ふんそ花達ハ眠る半
鳴く

正まらる海老や時乃市乃中
而得

ちの言乃あくて森や花手栞りか
友枝

花明るを花光木乃乃のぬえり色
牛後

いり日強そ海く入るん花乃水
美栞

午時色や花乃花乃草乃雨
笠雅

長いあしちりそ海る水鶏うか
化
七人

そくう花乃明くそありぬ花草履
備
涼呼

栞乃ほくろあつそくく栞乃空
化
北頭

噴乃水鶏うろあしと思ひなり
備
瀬派

弁乃花や草花をそ風乃木乃
松毬

美乃壯ヤ志くぬや草も一みとり
 及一折と手く虎杖の節より介
 川草や咲と手く花乃多しふま
 元山やいく夜んそも 掌山
 重乃うらも美く花ふふ二乃山
 虫乃あとおんそおとろくや様乃節
 隣つてもとや〜とときぬ花様
 云傳と字とてひくひりう介
 明而き花中降たぬ草乃而
 松圃
 龍夕
 甘木
 物介
 掌山
 二川
 楳臣
 雪披

夕花け乃志とくさぬぬ葉汁
 山里と似合ぬ草乃花志う介
 杉山と出立乃月や時 佳風
 珍なる日もふ妙やふ二乃山
 朝の草や花 採新乃花所り
 水の花もさうくあうふく性
 楸乃花おとす花や〜や冬乃月
 水乃子の葉候う花や垣乃介
 公侯や海より更て花月
 木居
 楳亭
 一塵
 不雲

舟より居て糸をくしり乃時雨

長府 木亭

南街道

又々々々も延出さるる水柱

紀伊 乙羅

お乃をヤ夕日瞥き長

長 暇 松年

豆腐やく灰も誘ふやを以て

水岳

けめろろろもゆきくく小田乃

竹羅

松風乃おと糸つるふや花

巴涼

改すの詞も清しきくのみ

希松

きぬき餅搗おとやぬるお

汲古

夏乃たる家志はうなり乃

崑外

よき天糸糸樹乃かけを人のり

終崎 朝成

本乃もとハオと小くきく夏乃

路地

川ハ海と菊柳乃ちくく

アハ 菊像

田乃あろく人乃あうんこ

サエキ 木長

妻雨乃降志つめり乃

昌山

たよりあきまよてふ花小麦

對海

糸乃を早くせりや半乃息

イヨ 黙翁

つくろりぬ花海後ろ朝も柳

糸外

人ちるや年乃市るも夕あり

半窓

初蝶工誘ひ出されて眺みあり

五外

夕顔や露も誘ふ隣田士

芦岬

款と子乃栢子抄ひぬ田草丸

竹外

よりあつた日乃をりきや山に

可号

ぬくもり乃まそる火桶や櫛の之

壱居

取栢やまの咲きぬ尾乃より

藁圃女

西街道

花ハしく栢乃吹くあり栢乃風

栢居 虎山

鳥乃若の夕日と若る杜曉うふ

松聖

黄鳥の栢ふ工夫と栢乃志乃り

栢鳥

叶の音の時角ハ別れ日乃光

松彦 筑前

夏乃紫の承つく雨乃曇う如

可燧

子供も志るまそる星乃道徳

方井

流るるさはけ兼てや水ぬる心

栢志

日乃あつた河系乃果や栢尾草

木屑 筑后

取栢可ふ乃栢系の海をまきい

米路

鳥乃立や栢の灯乃吹く

麦合

言ふ木の啼て居るあり林乃坪

枿守

華乃うぬ毛のこ福乃幸う糸

豊后石友

蝉あぐやまうくうわく草乃雨

荳村

沙芽けや何とあまさくと林乃龜

巖小

長たしてあうわうあふ鴨川糸

呉石

溪乃や歩りあうら乃夕物涼

丘鳥

あまもすぬ廣形乃畏う糸

妻谷

雨晴乃ゆとぬまき糸卯月糸

敬夫

精ひても涼き風乃あう糸

雲城

ねちるを乃おもはれ乃乃を

肥后一化

明てんそあうらうくまき乃戸口糸

史敬

まきねや森てんゆな海乃吉

肥后枿士

ちるき乃んあやうらうらね

道丸

初をねやね乃ゆきまねえん尻糸

天草白羽

流むまてんそあまらあまら

風糸

芥火乃さむり廣うる枯枝乃

日向山雨

鳥の眼ハさあらうあまらあまら

晁松

月公く葉乃をきく一糸嵐

一松

一松

托歴

世乃人くうう	峰の音をえりてよき天来うか	ぬき極や只此九しうと極乃歌	涼しきを極ある川	何ひとら見えぬと極乃鳴り系	風流し月ある極のそまきつう	赤つりしき茶賣の里や極乃を
可久	鳥岳	少弥	美湖	曲川	可逸	五律

清葉をひけ	日坐乃りり	ぬき極や只此九しうと極乃歌	青くをよと赤くをよとてききる水茶	嵐山	松乃くもあう丸ハ多うも水
一枝	倉山	松郎	姑山	桃乙	

近江湖東

一里ハ梅乃明りヤ小春ウチ 可丈

五月五日宇治の縣社ニヤウ

冬禮ヤ群集乃ウニモ心巻 吳柳

松風ハ屋むノ尾花乃モモウチ 唐栗

風前ノ雨晴ニ進テれ乃モ 高山

青柳ノつゝノ花けりノモぬつる 金線

見ト進テノ幹ノ進ユモ梅ウチ 鶴雄

雨乃早ヤかき抑ノ藤ノモ乃咲 素口

人乃才ノそそぬ風ハ幟ウチ 苔雨

時雨ウチハ星露月明り 寸雪

つ松ヤ花モ及リぬ鳥 吟松

幸騎乃一志進ニ進テ鳥 風尾

廣き地乃花ノ中ヤウチ桔梗モ 一嘯

河をくノ餅モ磯モ餘モ 秋林

月乃入ノ中ノ中ニ澄ル 管玉

木雪モおろそろあらし葉乃白 杏月

雨晴テ向ノ明りヤ水鶏 松哉

とてうらを振子に栞乃うまうりり

玉鬘

花あうてあめり果るうき乃ぶ

俵山

金屏の福もいさくしてみそ花

栞谷

二階のうき花のなまきり雪らんり

菅雨

手向

吊るやふゆり浮草のむらじ

木々

今もその秋風さそふ葉紫うき

斗行

幽らあるきさるすやのそらけり

子月

夢乃あとの空乃さむらう時

美水

傾りあふ友や公髪を花乃あ

輝水

短折も涙平一志のふ祝うき

木英

空啼てま乃あそり乃いそり

文峰

実も折て葉乃茂りたる揚うき

翠園

雪ちのきま乃以雪や篠のうき

保六

左右十七吟各雖有前文畧之

正徳や又失うたう又ひとら

枝雪

はあはあ界をうらうら花乃甚ま

南岳

花又つ芳味や杖乃友

水壺

花乃名を抄にまうや梅の葉

松列

三月月ハウくまて花乃はむらさ

栲枝

今郎始力浮葉のひと世界

糶鬼

風ハ那ノ法乃清きく二月うか

瓜杖

孤梅やまふ布と乃善のつよ

胡白

此集編分半ノ字え一ハモ信加つ

雪ハいつ吹あくそ磨うり

麦海

中々木めく干川ノ青き一葉うか

乐浪

色江路ヤ吹雪まかた七季龜

塵介

松う根ノ莖咲たり小山乃

菟六

芙蓉乃あくや於麻乃小雨晴

杜笠

中水乃巴ノあうやかきつる

李峰

振むるノ遠葉まは柿うか

士将

今風や木葉ちり来る舟乃中

里曉

乃狭く思ふを乃乃戻りうか

金垣

山雀も終ノあしめて冬もり

水車

慰くあふや炭乃かへり 咲

秋菜

甜うまうまうとやうなり色も花乃子
 海上に枕を敷きハ浮て居る事あり
 丁あくや露うたれりももる事あり
 雨乃たれりももる事あり
 形乃灯の光るる事あり
 川筋くおもひ出たり交乃月
 公象や花梅りすも公象乃中
 青柳や流るる事あり根乃公象
 葛餅乃あまの溜りやすも乃峰
 是雅
 廉園
 素玉
 折二
 梅園
 呂川
 田境
 作雄
 有子

出離乃決意をおし

人乃世をゆく事あり花さきり
不捨

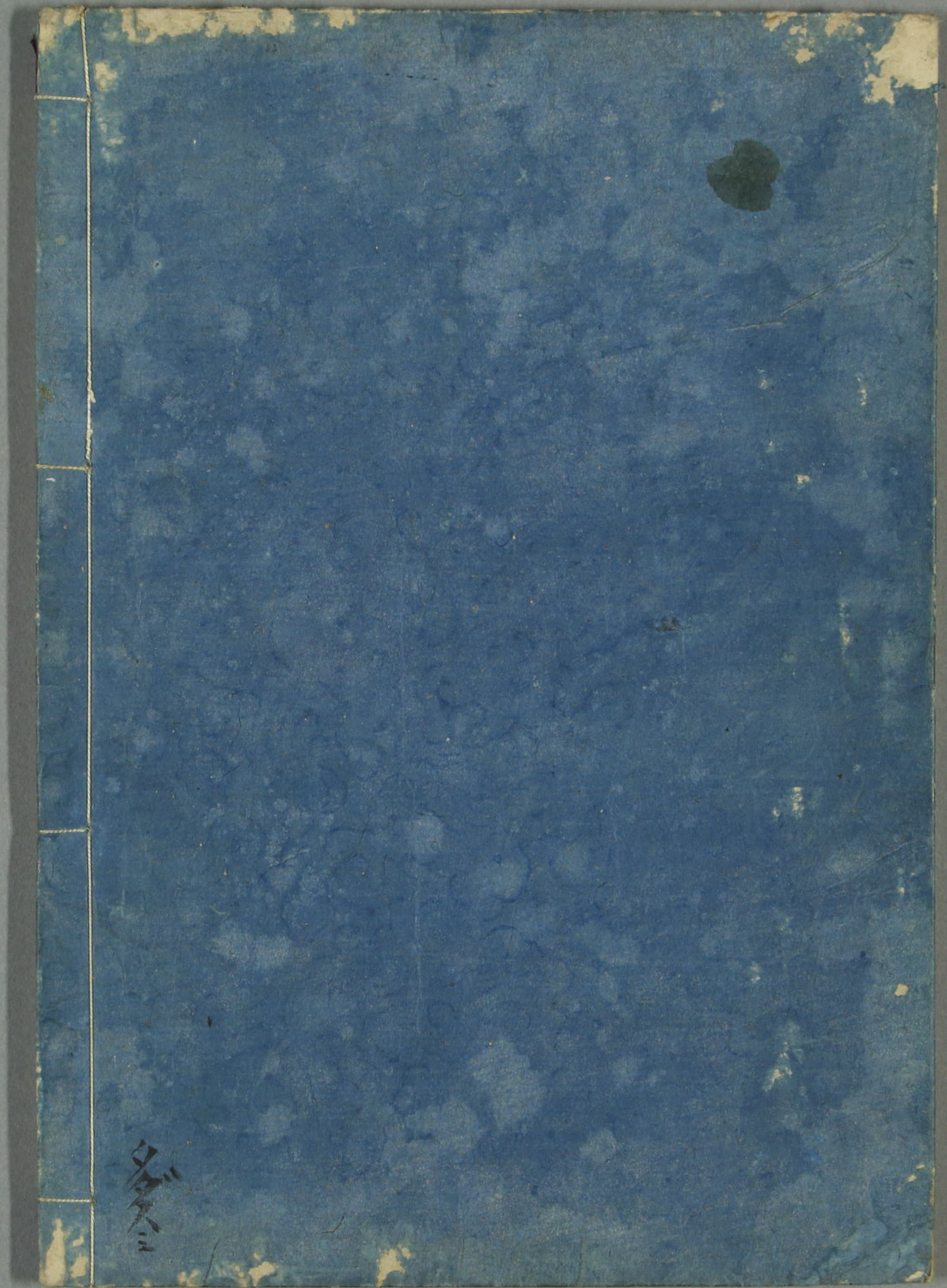


桃さくや女ある事あり乃箴のおと
 梨雨女
 仮持もあまの花乃世来り耶
 木鶏

予^{サキ}爲る事あり乃世をゆく事あり
 鹿を踏く事あり乃世をゆく事あり
 ありてあまの田里に帰りし事あり
 ことつらき事あり乃世をゆく事あり

もそをこくとくにむくひる米々
 かりき然るふいし一社父于當乃多回
 を吊らんははりてふいさかある一集
 を編て四方乃君子へ疎きをこりし
 つることありを比へてをこく保子ま
 一しりまありと希ふまある
 浦くを比ふさ合せてまら乃峰 猿後園 尊雨





13